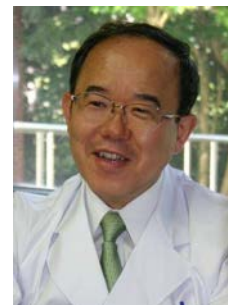


産婦人科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

産婦人科には周産期、腫瘍、生殖医療、女性ヘルスケアの4つの大きな柱があります。専門医試験には4分野から均等に出題されます。一方県内の研修施設を見渡すと単独施設でこれら4分野をカバーしている施設は非常に少ないのが現状です。産婦人科医を目指す方ならどなたにも充実した産婦人科研修を行っていただくため、県内の研修病院の連携による本プログラムを作成いたしました。このプログラムの参加施設は県立静岡がんセンター、県立総合病院、県立こども病院など静岡県の主な基幹病院の16施設です。浜松医科大学がコーディネーターとなり研修内容、研修方法を調整いたします。どの施設も症例が豊富で指導者も充実していますので産婦人科専門医試験までに産婦人科4分野をくまなく研修し、必要な手術症例数、分娩数などクリアできるように設定されています。最大の特徴は本プログラムを終了し専門医取得後も希望があれば継続的に指導が受けられることです。その結果、サブスペシャリティーの専門医取得、学位の取得まで責任を持って指導する所存です。産婦人科医を目指す方は是非このプログラムに参加し、各自の夢を実現して頂きたいと熱望いたします。



プログラムリーダー 浜松医科大学医学部産婦人科 教授 金山尚裕

2 目的

初期研修医を終えた医師を対象とし、日本産科婦人科学会専門医の取得を目指すとともに周産期、腫瘍、生殖医学などの専門性の高い研修を行いそれぞれの分野のサブスペシャリティー専門医を取得できるよう知識と技術を身につけます。また、研修病院群に常勤医、非常勤医として勤務しながら大学院へ進学し学位を取得することも可能です。静岡県西部、中部、東部地区の中核となる病院で研修することで広い交友関係を築き、地域医療に貢献します。

3 目標

日本産科婦人科学会専門医取得について

日本産科婦人科学会認定専門医は、日本産科婦人科学会会員となり日本産科婦人科学会認定施設で卒後臨床研修5年終了後（初期研修中は非会員でも資格あり）に受験資格が得られます。医師免許取得後3年目の9月までに学会に入会している必要があります。本プログラムに参加している研修病院の研修で日本産科婦人科学会専門医取得が可能です。産婦人科専門医取得後これらの施設でサブスペシャリティーの専門医（周産期専門医、婦人腫瘍専門医、生殖専門医、婦人科内視鏡専門医等）の研修も受けられます。

日本産科婦人科学会認定専門医の取得に必要な経験症例や学術活動は本プログラムの研修病院で指導を行っています。

【必要経験症例】

- a. 分娩症例 150 例、ただし以下を含む（4）については2）3）との重複可）

- 1) 経膈分娩；立ち会い医として 100 例以上
 - 2) 帝王切開；執刀医として 30 例以上
 - 3) 帝王切開；助手として 20 例以上
 - 4) 前置胎盤症例（あるいは常位胎盤早期剥離症例）の帝王切開術執刀医あるいは助手として 5 例以上
- b. 子宮内容除去術、あるいは子宮内膜全面搔爬を伴う手術執刀 10 例以上（稽留流産を含む）
 - c. 膣式手術執刀 10 例以上（子宮頸部円錐切除術、子宮頸管縫縮術を含む）
 - d. 子宮付属器摘出術（または卵巣嚢腫摘出術）執刀 10 例以上（開腹、腹腔鏡下を問わない）
 - e. 単純子宮全摘出術執刀 10 例以上（開腹手術 5 例以上を含む）
 - f. 浸潤癌（子宮頸癌、体癌、卵巣癌、外陰癌）手術（助手として） 5 例以上
 - g. 腹腔鏡下手術（執刀あるいは助手として） 15 例以上（上記 d、e と重複可）
 - h. 不妊症治療チーム一員として不妊症の原因検索（問診、基礎体温表判定、内分泌検査オーダー、子宮卵管造影、あるいは子宮鏡等）、あるいは治療（排卵誘発剤の処方、子宮形成術、卵巣ドリリング等）に携わった（担当医、あるいは助手として）経験症例 5 例以上
 - i. 生殖補助医療における採卵または胚移植に術者・助手として携わるか、あるいは見学者として参加した症例 5 例以上
 - j. 思春期や更年期以降女性の愁訴（主に腫瘍以外の問題に関して）に対して、診断や治療に携わった経験症例 5 例以上（担当医あるいは助手として）

【学術活動】

- a. 日本産科婦人科学会学術講演会などの産婦人科関連の学会・研究会で筆頭者として 1 回以上発表していること。
- b. 筆頭著者として論文 1 編以上発表していること。

4 特徴

- (1) 全県下にある中核病院が協力して行う研修プログラムである
- (2) プログラムにおける研修は原則 3 年とするが、研修終了後各研修施設で専門性を高めることや、大学院進学で研究をすることも可能である。
- (3) 産婦人科関連学会はもちろんのこと全国の同世代の医師と懇親を深められる closed な勉強会生殖医学フォーラム（国内の 8 大学での研究会）、周産期医療研究会（産科 DIC スコアを作成した浜松医科大学を含む 3 大学での研究会）などで全国の仲間と勉強する機会が得られる。
- (4) 地域の基幹病院で研修することにより正常分娩、良性腫瘍のような症例は数多く経験ができ、開業医などからの悪性腫瘍、重症搬送例を診療することができる。
- (5) NICU 研修をすることができる。
- (6) 臨床研究や基礎研究を行える機会がある。

5 研修カリキュラム

原則として 2 つ以上の病院で研修をします（配偶者が転勤となる場合は希望なども考慮します）。研修病院の選定は各研修病院のバランス、研修内容を評価した上、希望も踏まえてプログラム運営委員会で行われます。なるべく全県にまたがり、研修できるようにする。

(1) 産婦人科オールラウンドコース

研修病院群の中から2-6つの病院をローテーションする。日本産科婦人科学会専門医を取得し、産婦人科一般を診療できるようにします。手術症例数の多い、富士中央病院、富士宮市立病院、静岡県立総合病院、静岡市立静岡病院、静岡赤十字病院、藤枝市立総合病院、磐田市立総合病院、浜松医療センター、浜松医科大学などの病院を複数回れます。産婦人科専門医取得後も希望の病院で勤務できます。

(2) 周産期専門・腫瘍専門・生殖専門医コース

周産期専門医取得のための静岡こども病院での研修、婦人科腫瘍専門医取得のため静岡がんセンターでの研修、生殖専門医取得のための浜松医科大学での研修をいつでも受け入れます。

(3) 大学院コース

大学院に入学する時期はいつでもよいですが、社会人大学院生として研修病院群に勤務しながら研究を行い、学位論文を作成します。また通常の大学院入学ですと産婦人科専門医取得後2年程度でと医学博士取得が可能です。

6 研修例

専攻医研修の例

中部地域 主体コース	県立総合病院 1年間	静岡市立静岡 病院 1年間	県立こども病院 1年間	専 門 医 取 得
東部地域 主体コース	富士市立中央 病院 1年間	県立総合病院 1年間	富士宮市立病院 1年間	
志太 中東遠 主体コース	中東遠医療セ ンター 1年間	磐田市立総合 病院 1年間	藤枝市立総合病 院 1年間	
西部主体 コース	浜松医療セン ター 1年間	遠州総合病院 1年間	磐田市立総合病 院 1年間	

上記以外にも任意の組み合わせ可能

産婦人科専門医取得には産婦人科研修基幹施設(専門医が4人以上いる施設)での研修が最低半年は必要なので、基幹施設研修が上記に加わることがある。

7 研修病院群(症例実績を含む)

① 浜松医科大学医学部附属病院

研修指導医 産科婦人科教授 金山尚裕

当院は周産期、腫瘍、生殖医学のバランスがとれ、大学院進学し研究のできる施設です。年間700件以上の分娩数があり、新生児集中治療室(NICU)併設の周産母子センターであります。無痛分娩も行っていますが、合併症を有した分娩も多く母体・胎児専門医取得のための基幹病院で

あります。婦人科腫瘍専門医を有し、指定修練施設として指導をしています。また生殖医療にも重点をおいており生殖専門医の取得も可能です。研修病院で興味のある分野についての研究をするために大学院進学をも可能です。留学を考えている方は大学での研修がもっとも近道です。

また全国で唯一の産婦人科家庭医療講座（講座代表 杉村基教授）もあり、産婦人科専門医取得と菊川市にある家庭医療センターと連携し家庭医療の研修も可能となります。

②浜松医療センター

研修指導医 産婦人科 岡田喜親

8-10名の常勤産婦人科医師が勤務している施設です。同一フロア内に周産期センターとして、NICU、緊急手術室兼 high risk 分娩室、LDR 室、産科病棟を備え母体、胎児から新生児へと一貫した管理を行っています。母体管理糖尿病、甲状腺疾患、血液疾患、腎疾患などの合併症妊婦の管理から早産を中心に周産期異常の全てに対応しています。

新生児科医師（産科婦人科専門医でもある）を中心に 24 時間体制で超低出生体重児（1000g 未満）、早期産児、呼吸障害児、循環障害児、重症感染症など新生児における急性期の病態に全て対応しています。NICU 研修をすることができます。

当院附属の先端医療技術センターと共同で PET（陽電子放出型断層撮影）を積極的に診断応用し、今までの画像診断では判別できなかった転移などの検索に成果を挙げています。また、婦人科癌の治療でも手術・放射線・化学療法の三位一体となった集学的治療で成果を挙げています。

AIDS を含む STD（性感染症）の精査・治療においては、最新情報をもとに積極的に取り組んでいます。

③ J A 静岡厚生連遠州病院

研修指導医 産婦人科 稲本 裕

4名の常勤医で産婦人科手術を平成 22 年は 396 件、婦人科疾患は、良性疾患から悪性疾患まで広く対応しています。平成 15 年から緩和チームが発足しました。癌治療の早期から緩和チームが肉体的、精神的にサポートし、苦痛を和らげて治療出来るように努力しています。平成 22 年の総分娩数は 1,024 件で研修病院でもトップクラスであります。

④磐田市立総合病院

研修指導医 産婦人科 徳永直樹

常勤 5 名と非常勤医師で分娩数 1,000 件近くと非常に多く、研修医に人気のある病院である。婦人科の手術症例も多い。地域周産期母子医療センターとともにがん診療連携拠点病院である。

⑤中東遠総合医療センター

研修指導医 産婦人科 幸村 康弘

現在3名の日本産婦人科学会専門医＋常勤医師1名の4名体制に加え3名の非常勤医で診療を行っています。

当科で取り扱っている年間の分娩件数は約520件、手術件数は約200件です。

婦人科疾患では子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫等の良性疾患および子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌等の悪性疾患、子宮脱等に対する診療を行っています。

治療方針に関しては科内で十分なカンファレンスを行い、患者さん個々のライフスタイルと希望を考慮しつつ根拠に基づいた医療（Evidence based medicine）を提供することを目指しています。

⑥藤枝市立総合病院

研修指導医 産婦人科 平井強

常勤4名と非常勤医師の体制です。NICUがあり、地域の産婦人科開業医より母体搬送が多くあります。麻酔科常勤医が5名おり、時間外緊急手術（緊急帝王切開を含む）は迅速に対応できます。平成26年には救急救命センターが稼働します。症例数が多く産婦人科全般を広く学べます。

⑦市立島田市民病院

研修指導医 産婦人科 小松孝之

常勤医1名（非常勤医2名）の体制で診療にあたっています。このため止むを得ず診療内容に制限を設けさせていただいています。当科での診療内容は以下のとおりです。

産科は、ローリスク妊産婦の周産期管理（分娩15件／月）が中心ですが、当院NICUのバックアップや県立こども病院周産期センターとの連携のもと、切迫早産、子宮内胎児発育遅延などの妊娠合併症、さらに総合病院の産科として内科と連携して糖尿病、甲状腺疾患などの合併症妊娠も診療しており、ミドルリスク妊産婦の周産期管理まで及んでいます。母体のハイリスク妊産婦は適切な医療機関をご紹介します。

婦人科は月経困難症や不正性器出血、更年期障害などの精査加療、子宮筋腫や卵巣嚢腫などの良性腫瘍の保存的治療、子宮脱や頻尿・尿失禁の保存的治療です。尚、手術を要する場合や悪性腫瘍の場合は、適切な医療機関をご紹介します。

人員不足で困難な状況ではありますが、総合病院の産婦人科としての役割を果たしつつ、地域女性の健康のため日々努力して参ります。

⑧静岡県立総合病院

研修指導医 産婦人科 小坂謙三

婦人科悪性腫瘍の治療およびハイリスク妊娠の管理を中心に一般産婦人科医療を幅広く行っています。平成23年の新規治療した悪性腫瘍患者数は145名（子宮頸癌108名、子宮体癌17名、卵巣癌29名、その他6名）あり、手術、放射線療法、化学療法と最新の治療の流れを取り入れた集学的医療を行っています。ダビンチを用いた悪性腫瘍の手術を積極的に行っているのも特徴です。手術件数は子宮・卵巣悪性腫瘍手術をはじめ婦人科良性腫瘍手術、産科手術など合わせ年間622件行いました。静岡県中部地区の病院の産婦人科閉鎖が相次いでいることもあり手術件数は急増しています。平成24年秋からは全腹腔鏡下子宮全摘術（TLH）、全腹腔鏡下子宮筋腫核出術（TLM）も施行しています。平成23年の分娩数は569件（帝王切開術188例）あり、早産症例や母体合併症妊娠症例ではこども病院と連絡を取りながら管理に当たっています。

⑨静岡県立こども病院

研修指導医 周産期科 西口富三

常勤医4名の体制です。切迫早産、頸管無力症、多胎妊娠、子宮内胎児発育不全、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、前置胎盤、胎児異常（心奇形、水頭症、先天性横隔膜ヘルニア、食道閉鎖など）に対応しています。

紹介された多胎妊娠、子宮内胎児発育不全、胎児異常などのハイリスク妊娠を管理しています。胎児異常に関しては必要に応じて関連診療科（循環器科、小児外科、脳神経外科、腎臓内科、泌尿器科など）とも連携を図りながら管理を行います。

母体および胎児の集中監システムで妊娠管理を行い、超音波装置、3・4次元超音波装置などを使って胎児の検査・評価を行っています。また緊急搬送されるハイリスク妊婦に対しては手術部との連携を図り病棟内の手術室で速やかに帝王切開を実施し、出生児は直ちに新生児科（NICU）管理が可能となる診療体制を整備しています。

日本周産期・新生児医学会認定母体・胎児専門医の基幹病院となっており総合周産期母子医療センターであります。

⑩静岡赤十字病院

研修指導医 産婦人科 市川義一

当院は、現在常勤医師5名で周産期、不妊症・不育症、婦人科腫瘍、更年期・ホルモン外来など様々な領域の患者さんを幅広く受け入れ、静岡中部地区の基幹病院として診療に当たっています。日本産科婦人科学会総合型専攻医指導施設として、常勤産婦人科専門医4名が後期臨床研修医（現在は1名）の育成・サポートに当たり、専門医取得に必要とされる知識と経験を実際の臨床の現場で1例ずつ積み重ねていただくことを研修の基本理念としています。連携型専攻医指導施設で研修されている医師や subspecialty 取得を目指している医師の研修の一部を当院で請け

負うことも可能です。

1年間のおおよその診療実績は、分娩件数：約 600 件、手術件数：帝王切開約 200 件、良性婦人科腫瘍手術 約 280 件（うち腹腔鏡下 100 件、子宮鏡下 30 件程度）、悪性腫瘍手術 約 80 件（うち広汎子宮全摘術は年 6-7 件、骨盤リンパ節郭清 30 件、傍大動脈リンパ節郭清 10 件程度）、体外受精：採卵 11-15 周期、胚移植 25 周期、人工授精：約 140 件となっています。

当院は大規模病院ではありませんが、周産期専門医、内視鏡技術認定医、癌治療認定医、細胞診専門医などの認定指導施設を取得しており、産婦人科専門医取得後の subspecialty も視野にいれながら研修をすすめることができることも特徴です。後期研修医に対しても学会や研究会への参加・発表に病院から一定の援助があり、臨床試験などへの積極的な参加とともに、日常臨床のみならず広い視野、人間関係を構築し、未来の医療の発展に貢献できる医師の育成を目指しています。

また、院内保育所（夜間預かり有）を併設しており、妊娠・出産・育児中とも継続した研修を行うことが可能です。現在、病児保育についても対応できるよう体制づくりを行なっています。やる気さえあれば、自分自身のペースで産婦人科医としての経験やキャリアを積んでいける環境を構築、提供したいと考えています。

⑪静岡市立静岡病院

研修指導医 産婦人科 水野薫子

平成 27 年 4 月より常勤 4 名の体制へ増員となります。当院では NICU を併設し、各科揃っているため、早産や母体合併症のあるハイリスク症例を多数受け入れています。それらの経緯から、当院は平成 20 年 10 月より、静岡県の地域周産期母子医療センターに指定されました。なお、必要のある場合には、県立こども病院をはじめとする総合周産期センターと連携をとりながら周産期管理を行っています。また、異常分娩時には小児科医師も立ち会い、迅速・適切な処置・治療を行っています。

子宮筋腫・卵巣嚢腫などの良性腫瘍、子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌などの悪性腫瘍、子宮脱、性感染症、無月経などの内分泌的疾患、子宮内膜症、不妊症、など婦人科疾患一般を幅広く診療しています。

⑫富士市立中央病院

研修指導医 産婦人科 鈴木康之

5-6 名の常勤医体制で静岡県の地域周産期母子医療センターとして、他の診療施設からの母体搬送を引き受けさせていただき、当院小児科または県立こども病院等と連携し周産期医療にあたっております。そのため、母体合併症妊娠（糖尿病・慢性腎炎など）や多胎妊娠・妊娠高血圧症候群・前置胎盤などのハイリスク妊娠の患者さんの比率が多くなっております。子宮頸癌・体癌・卵巣癌等の悪性腫瘍に対して手術・放射線・化学療法を組み合わせ、様々な患者さまの状態に応じ、ご要望に合う治療を目指し行っております。

腹腔鏡下の手術が可能となり、不妊症の治療・精査だけでなく、子宮筋腫、卵巣腫瘍・子宮内膜症・異所性妊娠等の手術を行っております。子宮鏡も導入され、子宮体部の病気に対して検査・治療の方法の一つとして可能となりました。

⑬富士宮市立病院

研修指導医 産婦人科 土井貴之

日本産科婦人科学会専門医制度に基づく卒後研修指導施設であり、富士宮市の中核総合病院です。医師スタッフは、現在3名（日本産科婦人科学会認定専門医3名）と非常勤医師2名です。産科婦人科に対する市民のニーズは単なる一般産科婦人科診療にとどまらず、更年期医学、思春期医学、不妊症と広範囲にわたっています。年間分娩件数は約480件、手術件数は約350件です。近隣には帝王切開を行わない分娩取扱い施設が5つ（助産所を含む）あるため緊急母体搬送例が多く、麻酔科、放射線科、小児科と連携して急遂分娩、産科危機的出血に対応しています。

⑭静岡県立静岡がんセンター

研修指導医 婦人科 平嶋泰之

常勤スタッフは6人です（婦人科腫瘍専門医4名）。あらゆる婦人科がんの治療を行っています。婦人科のがんで多いのは子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんですが、この他に卵管がん、外阴がん、膣がん、絨毛がんがあります。基本的な治療方針は婦人科腫瘍学会から提示されている治療ガイドラインに沿った標準治療となります。様々な条件の患者さんに最適な治療方針を検討するために、婦人科内はもちろん、放射線治療科、病理診断科と定期的に会議（カンファレンス）を開いています。また、医師の間だけでなく看護師、薬剤師、栄養士などの多くの職種との連携を大事にしています。さらに、新たな治療薬や治療法の開発・確立を目指して、患者さんの同意を得た上で臨床試験や新薬の治験にも積極的に取り組んでいます。2012年の総手術数367件（広汎子宮全摘術47件、後腹膜リンパ節郭清95件を含む）でありました。

⑮聖隷沼津病院

研修指導医 産婦人科 山道 玄

医師数は、常勤4名・非常勤3名体制で診療を行っており、このうち、4名が女性の医師となります。

産科における当院の特徴は、正常分娩を主体とした周産期診療を行っています。また、内科合併症の妊婦の受入れも可能です。現在は、安全な周産期医療を提供できるよう分娩件数を制限させていただいております。そして、NICUが併設されているのも当院産科の大きな特徴です。

婦人科については、子宮内膜症、子宮筋腫をはじめとした一般婦人科疾患を対象とした診断と治療、骨盤臓器脱等の専門外来も行っています。専門的な診断とメッシュ手術を含めた最新の治療を提供できるよう努力しており、また不妊治療にも力を入れています。

⑩聖隷浜松病院

研修指導医 産婦人科 中山 理

産科・周産期部門

1998年に総合周産期母子医療センターに指定され、産科救急のみならず、高度産科医療に対応した体制を整えております。正常分娩も取り扱っており、2013年は年間約1500例の分娩を取り扱っています。ハイリスク胎児症例は、NICUばかりではなく、小児外科、小児循環器科、小児心臓血管外科、小児脳神経外科などの小児病院的な専門各科と連携して治療に当たっています。また、母体の合併症や母体救急などにも内科各専門科に加えて、麻酔科、循環器科、脳神経外科、脳卒中科などと連携し様々な母体合併症や母体救命にも積極的に対応しています。また、多胎妊娠の管理や胎児診断・治療も積極的に行っています。特に双胎間輸血症候群（TTTS）のレーザー治療や胎児胸水への胎児胸腔-羊水腔シャント術は、先進医療の認可を受けて実施しています。

婦人科部門

良性腫瘍、悪性腫瘍ともに取り扱い、婦人科救急体制も整えています。2013年は広汎子宮全摘術をはじめ婦人科手術件数全体では年間1,000件程度（帝王切開および子宮内容除去術を除く）です。産婦人科内視鏡学会認定医を中心に年間300症例以上に腹腔鏡下手術を施行しています。また、婦人科新規悪性腫瘍登録数は200例であり、外科・泌尿器科を始め他科や他部門と連携して、最先端の集学的治療から緩和医療まで行っています。

不妊内分泌科

体外受精、胚移植、顕微授精、胚凍結などの高度不妊医療から一般不妊医療まで幅広く診療を行っています。男性不妊に対しても泌尿器科と連携し精巣からの回収精子による体外受精も行っています。年間150件以上の高度生殖補助医療を行っています。総合周産期母子医療センターと不妊部門が同じ施設にあり連携しているという環境で多胎妊娠を減らすよう努力を常に行っており、全国の他の施設に先駆けて移植胚の制限や単一胚盤胞移植などを行い、妊娠率を下げずに多胎率を減らす不妊医療を行っています。

⑪その他

補完施設として市立湖西病院、菊川市立総合病院、静岡医療センター、俵IVFクリニックがあります。菊川市立総合病院には家庭医療センターがあり、家庭医療を勉強しつつ、産婦人科専門医の取得が可能です。

8 研修期間

日本産科婦人科学会専門医取得は本プログラム研修3年終了後4年目の5月に申請書類（症例レポート、手術・分娩症例、学術論文、学会発表など）を提出し夏に試験（筆記、面接）があります。研修病院群で勤務している医師の専門医試験合格率は100%です。学術論文作成については浜松医科大学産婦人科教室が指導協力を行います。

周産期、腫瘍、生殖医学における専門医は3年の研修期間が必要（日本産科婦人科学会専門医取得後で各専門学会に入会していることが要件）です。本プログラム終了後分野別専門医の取得を目指す場合、浜松医科大学で研修（全ての分野に対応）、または静岡こども病院、静岡がんセンターでの専門研修を行うことが可能です。

9 プログラム参加の要件

- (1) 初期臨床研修を終了していること
- (2) 日本産科婦人科学会に入会すること
- (3) 日本産科婦人科学会専門医を目指していること
- (4) 最低3年間プログラム参加すること

10 処遇

原則として、各研修病院の常勤医として採用する。研修病院の多くは基本給以外の手当てに分娩手当（1件1－3万円）がある。

11 プログラム終了後の進路

プログラムの研修病院での継続勤務、浜松医科大学大学院進学、浜松医科大学、静岡こども病院、静岡がんセンターなどで各分野専門医取得を目指すことができます。

12 プログラム運営委員会

○プログラムの管理

委員長

浜松医科大学 産婦人科 金山尚裕

431-3192 浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学産婦人科

TEL053-435-2309

委員

研修病院群 研修指導医

浜松医科大学 産婦人科 内田季之

事務連絡先

浜松医科大学産婦人科 内田季之

utty@hama-med.ac.jp

13 その他

女性医師支援について

浜松医科大学産婦人科では女性医師復帰支援をしています。静岡県内の病院勤務であることが条件です。詳細は浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センターHP

<http://www2.hama-med.ac.jp/w1b/woman/>をご覧ください。